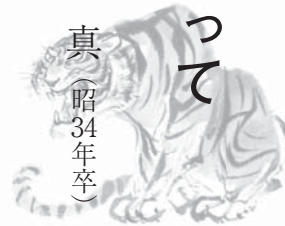


洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org

今年も明るい希望をもって

洛友会会長 長尾 真(昭34年卒)



新年明けましておめでとうございます。今年も皆様それぞれにとりまして良い年でありますようお祈り申し上げます。戦後初めての本格的政権交替という状況を迎え、いろいろと混乱もあり心配も多いわけですが、半世紀間つづいて来た日本の体質を変えてゆく過渡期でありますから、もう少ししんぼうして見守ってゆくことが大切かと存じます。

洛友会は会費納付者の漸減傾向が相変わらず続いているのは残念であり、卒業式のあとの送別会に出席して洛友会の会費納入を訴えたり、各支部長さんにも努力をお願いしたりしております。また学部学生を学生会員として、教室での学生に対する懇親活動を洛友会が積極的に支援して、洛友会のもつメリットを学生時代から実感してもらい、卒業後も先輩との交流を深めていくべく努力しております。皆様にもぜひ洛友会活動に積極的に参加していただき、社会のいろんな所で活躍していただき、人的ネットワークを広げていくことを期待しております。

近年電気電子工学科、また情報関係学科の人氣が全国的に下って

来ております。京都大学の入学試験においても合格者の最低点が工学部の中で最下位となったりし、また平均得点においても急激に下っているとのことでもあります。電気電子工学分野の不人氣がどういふところに原因があるのか定かでありませんが、何とかしてこれを克服する必要があります。

そういうことを考えておりました時に、私の同期生の伊藤俊一氏(昭和34年卒、元関西電力常務)から、伊藤氏も有力メンバーである電力発展史研究会が作ったという本をご恵送いただきました。次のような本であります。

『忘れられたルーツ』

—電力産業120年の浮沈と—

これからの100年—

ジャック・カサツザ原著

EIT電力発展史研究会訳補・編
日本電気協会出版(一、七〇〇円)

この本はカサツザ氏の原著の日本語への自由訳である第1章に続いて、伊藤氏を含む研究会の人々が書いた日本の電力の歴史と将来の課題(第2, 3, 4章)からなるもので、電気電子工学分野に従事して来た我々にとって多くのヒントを与えてくれ、また大きな希望をも抱かせてくれるものであります。特に第2章は日本の電力発展史に関心のある方にはぜひ読んでいただきたい内容であります。

カサツザ氏は米国の電力業界の

重鎮であります。短期的利益の追求という考え方や、市場経済万能主義、行過ぎた放任資本主義、技術軽視などがアメリカ社会でどうして生じたかといったことを2003年に起った北米の大停電などの例をひいて説明し、この風潮がいかにアメリカ電力界を蝕み、その健全な発展を阻害して来たかを鋭く指摘しておられます。

この指摘は氏の卓越した見識によるものと存じます。そしてエネルギーシステム、なかでも電力システムは人類のほかのすべてのシステムと経済活動という命を維持するための血管網であり、今後ますます重要になってゆくと述べられています。

この指摘は情報分野にいる私にとってもなるほどと感心させられるものであります。皆様もご存知かと思いますが、世界中の知識・情報を集積して全ての人々に提供するとして頑張っているグーグルという企業は世界中のインターネット情報を刻々と収集するとともに、グーグルマップ、ストリートビューや全世界の書籍の電子検索などをやりつつありますが、そのために想像もできないような数の巨大な記憶装置を並べた工場を砂漠の真ん中にもっております。そしてその記憶装置群を働かせるための電力供給が不足してくるの、記憶装置工場の傍らに発電所を建設するというのです。これをみても情報分野においても巨大な

迎春

二〇一〇年一月一日

本部役員

名誉会長 近藤 文治
会長 長尾 真
副会長 北井 茂
向井 利典
大澤 靖治

支部長

関西 田村 和豊
東京 松田 晃一
中部 根石 信行
中国 細田 順弘
四国 四宮 幸生
九州 深堀 慶憲
北陸 松本 純也
東北 井上 茂
北海道 中山 道夫

本部幹事

神戸 俊夫
木村 磐根
鈴木 実
佐藤 亨
北野 正雄

電力エネルギーなしにはシステムが成り立たないという時代になって来ていることが分かります。そこでアメリカでは国として火力、水力、原子力、風力、その他種々の電力発生源を統合的にコントロールしてエネルギー損失をできるだけ少なくして効率のよい電力の発生、送電、消費のネットワークを作るスマートグリッドというプロジェクトを開始しているわけです。これは電力技術と情報技術の結合した非常に面白いシステムであります。電気系教室でも情報学研究科の松山隆司教授と組んで生活環境における多様なエネルギー(電気、熱、風など)の供給と消費を最適にコントロールすることによって超省エネルギー生活環境・コミュニティを実現し将来のエネルギー問題に対処してゆくという研究をしておられ、その成果と実用化が期待されているところであります。

電池(バッテリー)などは大学の研究の対象ではない古くて進歩のない技術だと20年、30年前は半ば見捨てられていたのですが、今日では電気自動車をはじめ、パソコンの長時間電源などのために脚光をあげ、巨大な研究開発投資が行われ、京都大学工学部でも昨 নাম譽教授になられた小久見善八先生などは日本中で引っぱりだこで、大きな研究プロジェクトをひきいて大活躍をしておられます。

このようなことから、今は電

気電子分野の人氣があまりないのは事実でしょうが、将来はまた大きく脚光をあげ優秀な学生が集まってくる分野になるでしょう。そういった希望をもって今年も明るく過ごしてゆきたいものであります。



教室だより

エレクトロニクス・サマーキャンプ報告

電気電子工学科では、最近の学生が工学的な体験(模型や電子工作など)に乏しいことを考慮し、昨年度より夏休み期間を利用してエレクトロニクス・サマーキャンプと称するイベントを開催している。今年は9月28、30日の3日間の日程で、吉田キャンパスにて実施した。イベントの周知は、ポスターやホームページだけでなく、いくつかの専門科目の授業後にも紹介を行った。単位は付与せず、学生本人の意志で参加する形式を取っている。

内容は、目標達成型の課題に3日間かけてじっくりと取り組み、創意工夫や試行錯誤を繰り返した

がら、最終的にその目標を達成してもらおうものとなっており、まさに工学的な体験をってもらうという趣旨である。3日目の午後にはコンテスト(学生、教員、洛友会会員に公開)という形で学生達に成果を披露してもらい、優秀なチームや個人には学科長名で賞を授与している。(洛友会から副賞として図書カードも贈呈。)

昨年は初の試みということで1年生のみの実施であったが、参加した学生から大変好評だったので、今年は、2年生、3年生向けのテーマも用意し、3学年に対して実施した。基本方針は電気電子工学科企画・広報委員会で議論し、具体的な企画・運営は、4名の若手教員(須田准教授、蛭原講師、山末助教、佐藤宣夫助教)と約10名のTAで行った。

キャンプと称しているが、実際に宿泊するわけではない。ただ、時間を気にせず、仲間とコミュニケーションを密にしてキャンプの気分で充実した時間を過ごすという意味でこの名称を使っている。(今回は、2日目に徹夜で製作・調整に取り組んだ学生が数名おり、その学生と徹夜に付き合ったTAにとっては名実共にキャンプとなった。)各学年の課題は以下の通りである。

・1年生「LEGO Mindstormsによるロボット製作」

去年に引き続き、「柿ピーナツ」の柿の種とピーナツを分別

するロボットを製作するという課題に、8チーム、22名の学生が挑戦した。最終日には、ルールや採点方法が規定された本格的な競技会が、TAによる司会と審判のもと開催された。試作ではうまく動いていたものが本番では誤動作し、競技の僅かな待ち時間にプログラムや構造を組み替える必要に迫られるなど、波乱と緊迫感に富んだ競技会で、観戦者も大いに楽しむことができた。最優秀賞、優秀賞に輝いた2チームのロボットの完成度は非常に高く、ほぼ満点に近いスコアを獲得した。また、独創的なロボットを作成した2チームには技術賞ならびに「うけたDE賞」が授与された。

1年生



迎春

二〇一〇年一月一日

京都大学

電気関係教室

教員一同

パナソニック

株式会社

株式会社 S C C

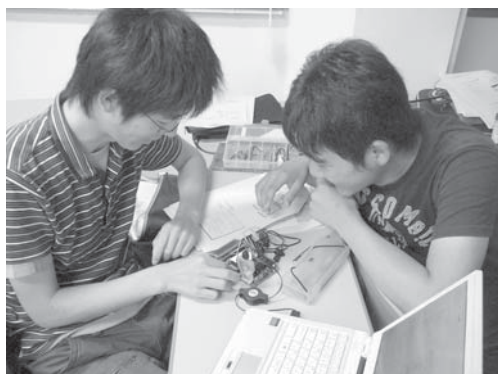
代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発 株式会社

代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園
北海道情報大学

理事長 松尾 泰



2年生

・2年生「Programmable System-on-Chipを使って音のするものを作ろう」
アナログ、デジタル機能ブロックを内蔵するワンチップマイコン(Cypress PSoC)を用いて、何でも良いから音のするものを作るというテーマに12名の学生が個人で取り組んだ。前半の1日半は、PSoCの活用方法についての集中セミナーが開催され、その後、学生達が各自のアイデアを実現すべく製作に取り組んだ。多機能オルゴールやゲーム、楽器、脈拍を音にする装置など、技術、アイデアに優れた多数の作品がコンテストで披露された。高校時代から電子工作やプログラミングをしている

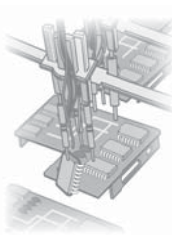


3年生

ような猛者もいたが、電子工作は全くはじめてという学生も賞を受賞しており、経験を問わず幅広い学生に対応できる課題であることが確認できたので、来年も同一課題で開催する予定である。参加者全員の採点に基づき、最優秀賞、優秀賞、技術賞、アイデア賞が授与された。この2回生のテーマは、CQ出版トランジスタ技術編集部の後援もうけており、参加賞として月刊誌「トランジスタ技術」が、また、特別賞としてトラ技賞が1名に授与された。
・3年生「走査型プローブ顕微鏡の製作」
これまでに授業や学生実験で習った制御工学と電子回路の知識

を用いて、走査型プローブ顕微鏡の試料表面間距離制御系の設計と製作を行った。ナノスケールの表面形状像という結果が目に見える形で得られることもあり、参加者全員で驚きと満足感を共有することができ、初めて像が得られた際には、自然と拍手がわき起こった。3年生向けサマーキャンプは今回が初回ということで少人数での開催となったが、教員、TAの目が行き届き、参加した学生間の交流も密で全体の一体感が感じられる良いキャンプとなった。製作のプラットフォームとしてナショナル・インスツルメンツ(NI)の[LVIS]を活用し、NI社からは技術者の派遣協力もいただいた。
学生達が、苦勞の末に目的を達成する喜びを自然に感じ取ってくれる様子を見て、企画・運営にかかわった教員、TAも大きな達成感を味わうことができた。3日目の夜には、交流会が天寅で開催され、参加した1・3回生の学生達の上下のつながり、学生と教員・TAとの懇談の良い機会となった。
本イベントは、洛友会から、学生会員制度における事業として後援を頂いている。副賞および交流会開催費用の一部を洛友会からの補助でまかなった。また、3日目の発表会には、洛友会代表として名誉教授の木村先生に審査員として参加していただいた。
来年も開催する予定なので、最終日の発表会には、都合のつく

方々は是非参加していただければ幸いである。サマーキャンプで課題達成に向けて生き生きと活動している学生の様子を見れば、電気電子工学の未来は明るいと確信が持てること間違いない。
サマーキャンプについての情報は、以下のページで公開している。
<http://www.see.tkyoto-u.ac.jp/ja/summercamp>



電気系教室懇話会報告

11月13日(金)、平成21年度の懇話会が例年通り吉田キャンパス電気総合館大講義室において開催されました。第一部は、北野電気電子学科長の開会の挨拶に続き、松重電子工学専攻長及び両宮電気工学専攻長の司会で3名の方の講演が14時から17時30分まで行われました。講演会には名誉教授の木村磐根先生を始め、卒業生、在学生、そして教職員等、昨年度を超える160名以上の多くの出席があった。
講演の最初は、英保茂名誉教授(昭和39年卒・現京都情報大学院大学教授)に「医療画像計測と診断情報の抽出」画像データから高

迎春
二〇一〇年一月一日

継 電気評論社

財団法人

近畿地方発明センター

理事長 近藤 文治

財団法人

応用科学研究所

株式会社 田中プリント

迎春
二〇一〇年一月一日

次元情報計測への挑戦と問題点」という題でご講演頂いた。先生の長年の研究テーマである医療分野での画像計測とそこから抽出される情報について、最近の進展も含め詳しくお話を伺った。

英保 茂 名誉教授



続いて、安田豊様（昭和48年卒、KDDI株式会社技術統括本部長）より「ケータイとブロードバンドの融合に向けて」という題目で、時代を先導し、また変化の激しいケータイやブロードバンドの世界を企業での研究開発責任者としての取り組みを紹介された。最近の太平洋を駆け巡る大容量の光ケーブルのインフラ整備により、更にインターネット環境が格段に充実するとの今後の展開に繋がる事、また最後には、ご郷里の和歌山にゆかりの深い南方熊楠の生き

方が現在の世界にも示唆を与えるとの興味あるお話もあった。

安田 豊 様



講演の部の締めくくりには、安本吉雄様（昭和49年卒、パナソニック株式会社 本社R&D部門技監）より「情報家電とホームネットワーク」という題でお話を頂いた。話の内容は、情報家電の歴史と現状、パナソニックグループの概要、情報家電の技術戦略、ホームネットワークの過去・現在・未来と多岐にわたるものであった。家電のデジタル化がもたらした激しい生存競争環境の中でアクティブに展開される企業の研究開発活動のお話、省エネに向けての情報家電の役割やHome Energy Management Systemsからスマートグリッドへの展開のお話など、

興味深いトピックにあふれたものであった。

安本 吉雄 様



ふだんの大学の講義では聞き得ないような、企業現場の生のお話、国境を越えて展開する研究開発やビジネスのお話など、とりわけ学生にとっては、参考になりかつ刺激になったであろう。

講演の部のあと、場所を吉田（旧教養部）生協食堂1階に移して、第二部として懇親会が開かれた。懇親会も175名という多数の参加者を得て大変盛会であった。会場のそこかしこに、名誉教授の先生方、卒業生、教職員、学生の垣根を越えた歓談の輪が広がり、なごやかな雰囲気の中、あつと言う間に終了時刻の19時半になってしまった。

◎退職記念行事のご案内

橋本弘蔵教授、大澤靖治教授におかれましては、来る平成22年3月31日付けで定年を迎えられることになりました。左記の通り、各先生の最終講義ならびに記念行事を開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

橋本弘蔵教授 最終講義のご案内

日 時…平成22年3月9日（火）午後4時00分より（予定）
場 所…京都大学 吉田キャンパス 電気総合館大講義室
題 目…「未定」
連絡先…京都大学 生存圏研究所 篠原真毅教授
Tel…0774-338-3818
email : shino@rish.kyoto-u.ac.jp

橋本弘蔵教授 退職記念パーティのご案内

橋本弘蔵教授退職記念パーティは平成22年5月9日（日）ホテルグランヴィア京都で開催予定です。
お問い合せは、最終講義と同じ連絡先までお願い致します。

大澤靖治教授 最終講義のご案内

日 時…平成22年3月15日（月）午後4時00分より（予定）
場 所…京都大学 桂キャンパス 桂ホール
題 目…「電力システム解析制御の40年」
連絡先…山本修講師
Tel…075-383-2229
email : o-yamamoto@kuee.kyoto-u.ac.jp

大澤靖治教授の退職記念パーティについては未定です。

会員 寄稿

子供の誕生直前に思うこと

田口 真海
(平13年卒・中部支部)

もうすぐ子供が生まれます。現在の心境・思うところを記しておきたいとおもいます。

1. 実感が湧かない

妻が妊娠した当初、おなかもまだ出ていなかった頃、私には子供が生まれるという実感、自分が父になる実感がありませんでした。「まだ生まれるまで時間はあるさ、実感も次第に湧いてくるだろう」と考えていました。しかし、今になってもそういった実感は湧いてきません。

妻に聞いてみたところ、妻も最初のころは実感はあまりなかったようです。しかし、産婦人科での検診のたびにエコーを見たり、日常生活の中でも自分のおなかの中で赤ちゃんが動いたり、生まれてくる赤ちゃんのために物を見に行ったりすると（おむつ・服・おもちゃ・乳母車・チャイルドシート等）、次第に実感が湧いてきたとの事です。

自分のおなかの中で赤ちゃんが動く感覚は、男には分からないので仕方がないですが、赤ちゃんのために物を買うに行くのには何度

かついて行ったこともあります。買い物という同じことをしていても、妻には実感が湧き、私には実感が湧きません。おそらく私には、赤ちゃんが生まれてしばらくしないと、実感は湧いてこないと思います。ですから、私はお腹の大きくなった妻の荷物を持ったり、一緒に散歩に行き、歩みにくそうな妻の背中を押したりと、今私が出来る事をして妻を支えていたいです。精神的に落ち込んでいた時（マタニティブルーの時）は、妻を笑顔にする為に、妻の話を聞いたり、遊びに行きたいという場所へ行き気分転換になるように過ごしています。

2. 子供の名前

私の名前は「真海（まさうみ）」といえます。こちらが名乗る前に読み方がわかる方はなかなか居らず、「まさみ」「しんかい」などと呼ばれることもよくあります。また、「（名前に海があるということとは）」ご実家はお寺ですか」と聞かれたこともあります。私の父はサラリーマンで、親戚にもお寺の人はいません。父は海釣りが趣味なので、この名前を選びました。字画などはまったく考慮しませんでした。私自身はこの名前を気に入っているのですが、初対面の人には名前が分かりにくいので、自分の子供には初対面の人でもすぐに分かるような名前をつけたいと思っています。

しかし、子供の名前を決めるのは簡単ではありません。最初のころは、私も父と同様に、字画はまったく考慮せず、付きたい名前をつければいいだろうと思っていましたが、字画も良いに越したことないだろうと思い直し字画にこだわり始めてからは、途端に難しくなりました。

今はインターネットで姓名判断ができます。名前を入力すると運勢が表示される仕組みになっています。そこで、自分たちの思いつく名前を入力し、良い運勢になるものを選ぼうとしました。しかし、自分が考えた名前を「名前のバランスが悪く、人生につまづきやすい運勢」「幸運にはめぐまれにくい」などと診断されるのは精神衛生上あまり良くありません。インターネットのみで名前を決めることには限界を感じました。そこで、子供の名づけ用の本を入手し、それに従ってよい運勢の名前を探すことにしました。

やはり専門書には候補が大量に並べられています。私の名字の画数に合う名前は、「翔、達也、諒、雄大・・・」らしいです。このように、本にはたくさん候補が並べられていますが、今までのところ妻と私が納得する名前にはめぐり合えていません。

出生届は赤ちゃんが生まれてから14日以内にせば良いので、赤ちゃんの顔を見てから名前を考えようということになりました。

3. 習い事のこと

気の早いことで、子供にどんな習い事をさせるかといったことも考えています。水泳や体操といった体を使うものから、書道、英会話などの頭を使うもので、習い事はいくつもあります。ちょっと変わったところでは、このまえゴルフの練習場に行ったら、3歳くらいの男の子と女の子が、コーチにゴルフを教えてもらっていました。クラブはとても小さく、ボールもほとんど飛びません。「こんな小さい子にゴルフは早すぎだ」と思いながら、それを見ていました。

ゴルフは別にしても、私は、子供には何か体を使う習い事をさせたいと考えています。私自身があまりスポーツは得意ではなく苦勞したので、子供にはせめて苦勞意識を持たない程度には、スポーツができてほしいという思いがあります。

子供にはいろいろやらせてみて、そのなかで子供が気に入ったものを（長続きしそうなものを）、選ぶのかと考えています。

4. 育児の手伝い

男は会社で仕事、女は家で育児という時代ではないようで、私もできる限り育児を手伝いたいと思っています。

平日は仕事があるので子供と接する時間はそんなに取れず、あまり育児はできないと思いますが、

その分休日には時間をかけて長く子供と接したいと思っています。

今自分が考えている、自分できそうな育児としては、子供が赤ちゃんのうちは、おむつを替えたり、お風呂に入れたりなどがあります。

そして、ある程度子供が大きくなったら、色々なものを見たり、聞いたり、さまざまな体験をさせて、視野の広い子にしてあげたいと思っています。

これまで取り留めのないことを書いてきました。実際に子供が生まれると、今の自分が考えているとおりに育児ができないことも多いと思います。そういったときにも子供のことを考え、その状況に応じて最適な育児をしていきたいと思っています。

子育て奮戦中!?

榎本 和宏

(平6年卒・関西支部)

私は現在関西電力で今話題の太陽光発電の電力系統への連系に関する業務に携わっておりますが、おそらく洛友会の皆様もいろいろなお立場で本件には関係されておられると思いますので、今回は仕事の話ではなく私個人（私ならでは？）のお話をさせていただきますと思います。

私は結婚して10年ほどになるのですが、この少子化社会の流れに逆らうかのように4人の子供に恵

まれております。

よくこういった話を自己紹介をかねて英会話教室で外人に話すと、よく子供さんは何歳ですかと聞かれます。そこで9歳と5歳ですと答えるときよんとされまます。9歳と5歳とあと何歳なんですかと聞き返すので、いやいや9歳と5歳ですと、まあこんなやりとりが続いて、大体双子ですかと聞かれるのですが、三つ子なんですよというところかなりびっくりされます。

そうなんです。我が家にはお兄ちゃんと3つ子(男の子1、女の子2)の4人の子供がいるのです。最初、「嫁さんから三つ子よ!」と聞いてもまったくピンともしませんでしたし、未だ知り合いで三つ子がいるというのもし聞いたことがありません。(僕の中の三つ子像は魔法使いサリーちゃんのように子ちゃんの弟(トン吉、チン平、カント)ぐらい)でも、これは現在進行中のストーリーで自分はその真っ只中にいるのです。

今回、こうやって原稿を書きながら三つ子が赤ちゃんだった当時のことを振り返ってみると、あまり細かくは思い出せないのですが、ご想像の通り、一人で3人(+お兄ちゃん)の面倒をみるのはほんとに無理で、常に2人体制、平日は私の母親、土日は私も及ばずながら面倒を見るという日々が数年続きました。その中で特に記憶に残っているのは、どうにか3人



を同時に寝かせて、自分達の時間を作ろうと苦労していたことや、オムツやミルクの大量購入(お店の人はどう思ってたんでしょ?)、そして子供にごはんを食べさせた後の掃除です。特にご飯の後の散らかりようはすごかったです。毎食後掃除しても掃除しても敷物の下からカーテンの下から、そこらじゅうご飯粒だらけでした。きれいな好きの人にはとても耐えられないような状況だったと思います。(今もご飯粒がおもちゃに変わっただけです。)

とまあ、手間がかかったことは事実なのですが我が家の場合、3人の上に4歳上のお兄ちゃんがありまして、三つ子が生まれた当初は皆が三つ子にかかりつきりだつたせいか、お兄ちゃんも、おしっこを漏らしをしてみたり、泣き叫

んだり本人にとって苦しかっただろう時期がありました。まあ、今となつてはケロッとしたもので、弟妹のよく面倒を見て遊んでくれています。(遊んでもらっています? たまに、三つ子じゃなくて四つ子かと思うぐらいです。)

ところで、話は変わりますが、多胎児に対する国からの支援というのは実はほとんどありません。地方自治体からの支援も保健師さんの訪問程度で、三つ子が比較的健康であつたため、これもすぐ打ち切られてしまいました。(自治体によって少し違うようですが。)支援らしい支援は唯一、日本ベビーシッター協会が多胎児家庭に対して助成をしてくれる制度があり、我が家の場合は年に4回ベビーシッターのサービスを無料(ただし1回につき4時間まで)で受けることができました。

海外のドラマなどを見るとよくベビーシッターが出てくるので、あちらではリーズナブルだと思うのですが、日本でベビーシッターを個人で頻繁に利用するのは非常にお金がかかります。

三つ子の場合、2人のベビーシッターに来ていただく必要があります、半日で2万円近くの出費になります。幸い我が家の場合は、私の母親も健在で妻も元気でしたからベビーシッターをさらに頼むこともなく何とか乗り切ることができましたが、このあたり、もう少し公的な支援がなければ、とても

じゃないですがお母さんが参ってしまうと思います。

少子化対策の中にこういった多胎児家庭の支援といったことも考えていただければと切に願います。

さて、三つ子を育てていて子育てをしている皆さんに是非お伝えしたいのは、性格というもののはかなりの部分生まれつきのものだという事です。明らかに三つ子の性格(性質)は一人一人違います。それも生まれてかなり早い時期から性格が違っていったように思います。かなり攻撃的な性格の子からおっとりした子まで、ここまで違うかと思うときがよくあります。(もちろんよく似ている部分もありますが。)まして、食べるものの好き嫌いなんで、同じものを食べさせてきたのに全く違います。親の躾や周囲の環境とかそういうことも、もちろん影響はあるのかもしれないですが、根本の部分で生まれついたものは非常に大きいと思います。

だから、育児についてあまり自分達を責めるようなことはしないでください。最後に私や家族の変化について述べたいと思います。元来、私は非常に神経質な人間であつたと思いますが、さすがに神経質ではやつてられませぬ。かなり自分自身変わったと思いますし、それで良かったと思います。また三つ子を育てている(非子供が多い)

といろいろと地域の皆さんに助けをもらう機会も多く、いずれは私自身が地域にお返ししていかないといけないと感じることが多くなりました。あと、私の両親も三つ子ができて非常に元氣になったと思います。なんだか孫が多いことが一番の親孝行のようで、これでもいいのかと思うところがあるのですが。これからはきつといういろいろなところがあるに違いないと思います。が、ここまで何とかやってこれたのですから、これからは楽しく向き合っていきたいと思います。

イツ・ア・デイスティニー

大橋 俊和 (昭60年卒)

洛友会会員になって25年である。大学での思い出は尽きないが、知らず知らず忘れかけていた。しかし、ある出来事をきっかけに記憶が甦り、それと共に人間関係が活性化し始めている。

そのきっかけとは私の恩師、松本絃先生の京都大学総長就任である。

松本先生とは大学4年生の時、宇治の超高層電波研究センターのゼミで初めてお会いした。仁王のような面構え、散弾銃のような弁舌に圧倒された。氏は、青白いエングニアではなく、文武両道、心身充実たる、日本を背負って立つ人材育成をという教育者としての高い志で我々を育ててくれた。後日、氏が私の高校(奈良女子大附属高校)の大先輩であると知り、

さらには家庭教師の生徒（今や39歳）が氏のご子息と同級生という偶然も重なって、私はこの出会いを運命と感じていた。1992年、私が30歳の時、結婚の媒酌人を氏にお願ひしたところ、多忙にも関わらず快く仲人を引き受けて頂いた。

筆者の結婚式で「新生の息吹」を歌う友人およびそれを聞く、中村先生（当時加藤研究室）乾先生（同卵本）松本先生（仲人）



披露宴で氏は大スペクタクル活劇風の、友人達が身震いして喜んだ新郎新婦紹介スピーチをしてくだされた。その録画テープはもちろん我が家の家宝のひとつだ。

そんな松本の「おっさん」が2008年、京都大学の総長に就任されたのである。当時、私は「男の更年期」を否定できない憂鬱な毎日を送っていた。そんな時、おっさんの活躍ぶりは最高の精力

剤、例えれば、まむしをスッポンジュースで煮込み、朝鮮人参を煎じた以上のバイアグラになった。

氏は「学問でさえもそれは真実をめぐる人間関係が成している。いわんや政治経済、いわんや芸術」と発言されている。この主張に私は大変感銘し、以来人間関係の充実に努力を続けている。

ここでは、運命を大事にして、グローバルな人間関係の礎を築きつつある一例を紹介し、先生への感謝に代えたい。

2008年の米国アカデミー映画賞は、「スラムドッグ\$ミリオネア」（英国作品）が作品賞含む8部門を受賞した。と同時に外国語映画賞には日本の「おくりびと」が輝いた。「スラムドッグ\$ミリオネア」の舞台はインドで、原作

筆者の写真。バックの高い建物が関電本社です。この38階（上から3F目）に普段はいます。



者は現大阪インド総領事のヴィカス・スワループ氏、オバマ大統領と同じ48歳の外交官である。また「おくりびと」は本木雅弘氏がインド・バラナシで死と生の連続性を悟り、10年余の曲折を経て生んだ作品だ。原作者である青木新門氏は昭和12年に富山で生まれ、満州で終戦を迎えた。引揚途上では妹を失う不幸に遭遇するなど戦後日本の苦勞の生き字引みたいな方である。

さて、スワループ氏が大阪に着任されたのが8月だ。丁度ヒロシマの平和記念式典では麻生総理大臣が核兵器廃絶を訴え、オバマ大統領への期待を熱く語った。8月は私の父の命日月でもある。亡父は広島で生まれ育ち、13歳にして図らずも原爆投下時の広島に居合わせた不幸な被爆者であったが、資源の無い日本にとってエネルギー保障が国家生存の要であり、原子力の平和利用こそが現実的な解決策だという考えであった。親父の思いはDNAとして私に引き継がれていて、私は運命として関電を選んだのかもしれない。

・・・こんな話を青木新門氏にメールした。すると即座に青木氏から「大阪インド総領事のスワループ氏に拙著を渡して欲しい」と「Coffman」（納棺夫日記の英訳書）が送られてきた。運命に動かされるように私はインド総領事館を訪問し、伝令を果たすと共に、一歩踏み込んでスワループ氏と青

木氏の出会いを提案してみた。すると御両名とも「イツツ・ア・ディステイニー」と喜ばれて、あれよあれよと明日会うことになっていく。（追補：平成21年11月25日に行った）

アカデミー賞を受賞した2つの映画の原作者が私の一通のメールをきっかけに関西で運命的に出会い、親交を重ねていただくことを願う。さらには松本のおっさんらと共に、世界に向かって普遍的な

11月25日にお会いした証拠写真。左から青木氏、小生、大橋の案内、SWARUP氏です。（於大阪インド総領事館）



同窓会だより

電気・電子33年卒業

同窓会報告

昨年、京都で開催された卒業50周年同窓会に続いて、本年も神戸地区在住の幹事、潮崎、馬場、河村および協力していただいた多くの方々により、9月29日、30日の両日、阪神大震災と明石海峡大橋を目玉として開催され、遠くは北海道、九州からも含めて前回は上回る32名が集まり盛会裡に終了した。

当日は新幹線の神戸駅駅およびJR三宮駅に集合、貸切バスにてメリケン波止場に移動、神戸ビィフ、蛸めし、明石焼き、地ビールなど、ご当地アラカルトの昼食。

「生存へのドクトリン」を発信して欲しい。中味は白黒まだわからない。しかし白と黒の間に、究極のメッセージが必ず見つかるはずである。それを捜すためにも、私は引き続きおっさんの薫陶を受けて一人として、洛友会の一員として人間関係の充実に励み、社会に貢献していきたい。

8月が鎮魂の月であることは変わらない。しかし、私は実は8月生まれでもある。オバマ大統領も8月4日生まれだと聞いている。生と死はつながっている。きっと、そういうことなのだろう。



そのあと、2時間にわたり、2班に別れ、ポトタワーからの神戸市の復興、発展状況を眺望、震災当時に崩れ落ちた岸壁が当時のまま保存されている神戸震災メモリアルパーク、三菱重工が中心となり開発した電磁推進船「やまと」、川崎重工が開発したテクノスパーライナーAのプロトタイプである毎時70kmの「はやて」など、また一般の方にも開放されている企業展示博物館であるカワサキワールドでゼロ系新幹線車両、ヘリコプタなど川崎重工の陸海空の製品の現物試乗を含め、模型、

写真などの展示を楽しんだ。

その後、バスにて宴会場および宿舍のシーサイドホテル舞子ビラ神戸に移動した。途中、近くの舞子公園に立ち寄り、明石海峡大橋の技術の集大成が展示されている「橋の科学館」、大橋下部の海面上約47メートルの高さに設けられ、高所恐怖症の人には足のすくむような足元がガラス張りの「舞子海上プロムナード」を散策し、続いて神戸の華僑や元川崎重工社長松方幸次郎らが支援した中華革命の立役者で、台湾、北京の双方からも顕彰されている孫文ゆかりの「孫文記念館(別名、移情閣、通称六角堂↑実際は八角形)」を見学した。

午後7時より近くの兵庫県最大の古墳である五色塚古墳にちなんで名づけられた舞子ビラ別館「五色の間」にて会席膳による宴が開かれた。

冒頭、この一年の間に亡くなられた故森雅英氏、八木晋一氏への黙祷の後、宴に入り、小山和男君の河内音頭、山本康喬君の漢字の音符研究についてのスピーチなどを挟んで盛り上がった。

二次会を含めて夜遅くまで、明石海峡大橋(別名パールブリッジ)の夜景、30分ごとに変化するイルミネーションを眺めつつ歓談した。翌日は希望者22人により明石海峡大橋を貸切バスで対岸の淡路島へ渡った。野鳥断層など震災の傷跡/記録が生々しく残されている

震災記念公園を見学した。震災時に約1メートル動いた野鳥断層の痕跡、多数の震災記録写真、散乱したままの家具、台所の状況など、また、震度7を含む激しい揺れを全員約1分間近く体験、とっさの時の対応の心構えなどを心に刻んだ。続いて、鳴門岬まで足を伸ばし、鳴門みさき荘で名物の海鮮料理に舌鼓を打ったあと、大鳴門橋下部にある幻の新幹線線路予定通路からの観潮、その後、淡路人形浄瑠璃資料館で人形浄瑠璃の詳しい説明、浄瑠璃人形との記念撮影などを楽しんだのち、全行事をつがなく終了して帰路につき、新神戸駅でまたの再会を約して解散した。折から、当日早朝に発生したサモア地震のため鳴門地区には津波注意報が発令され緊張が走ったが、かえって今回のいろいろの見学をより印象付け、今回の見学/観光を通じて、東南海地震など、近づきつつあると言われる震災の恐ろしさ、心構えの必要性を身近に感じたのではないかと思う。

なお本メモ、および参加者が撮影した写真は昨年と同じく喜利氏作成の「京大電気・電子33年同窓会ホームページ」にアップロードされており、各自が必要なものをダウンロードすることができる。また今回より、会員への同窓会の案内、連絡類は原則として電子メールを使用した。

(河村吉久 昭33年卒) 記

以上

事務局だより

今年度末に会員名簿を発行致します。調査票回答に御協力頂きました会員の皆様に感謝申し上げます。なお今回のご回答数が前回に比べて非常に少なく、名簿の編集上大変困った事態になっております。今回ご回答を寄せられなかった会員若干名の方にお尋ねしましたところ、前回回答を寄せられた会員は今回回答の必要がないと理解された方が多いことがわかりました。そこで、今回調査票をお寄せにならないかたの会員にしましては、前回調査時のご回答のデータ(掲載内容の可否)をそのまま活用させて頂きたく、会員各位のご理解をお願い致します。

訃報

昭10	神谷 進	21・10・9
昭23	浅野 収一	21・6・29
昭23	荻野 喜明	21・7・11
昭28	市川 健二	21・8・27
昭29	佐藤 文紀	21・3
昭29	藤田 實	21・10・15
昭34	金森 剛明	21・11・18
昭35	能田 豁	21・12・2
昭36	菅田 一博	21・9・21
推薦	堀内 俊壽	20・12・26

以上の方々のご逝去をさみしました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

景気浮揚、失業対策、少子化対策ということで各種の手当が打ち出の小槌のように次々と出てきます。しかし果たしてそれで問題が解決するののか心配です。私が学生の頃の下宿代は1畳千円でしたから6畳で6千円です。その頃修士の初任給が額面で8万7千円でした。最近の修士卒初任給は20万円から22万円というところでしょか。今の学生は下宿代に5万円前後払っていますから私の頃の10倍近くを払っているのに給料は2.5倍程度にしかなっていません。つまり住居費が異常に高騰しているのです。あたかも住居費には競争がないようです。これは荊妻の意見ですが、少子化対策には郊外に2DK家賃1,2万円のアパートを建てて35歳位までを限度に若い夫婦に貸し出せば良いというのです。そうすれば高いアパート代を払うために共稼ぎする必要もなくなり安心して子供を2,3人産むことができます。住居費も競争が生じてもっと安くなることでしょ。もっとこういふところにお金を使つて欲しいと思います。今の若い人はそういう面で昔の人より苦労しているようです。そのためかどうか、最近若い会員から洛友会を退会したいという連絡を貰います。(退会はできません)